

令和3年度評価

輪之内町教育委員会の権限に属する
事務の管理及び執行の状況報告書

令和4年5月

輪之内町教育委員会

目 次

第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに	1
2. 点検評価の実施について	1
(1) 「学校教育」の執行状況について	1
(2) 「社会教育」の執行状況について	1
3. 点検評価結果全体の概要	2

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動の状況	3
2. 事務事業の執行状況	3～4

第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに

輪之内町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和3年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告をここにまとめました。

2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による視察等の調査活動と教育委員会が令和3年度に実施した事務事業の中から主要な20領域について、実績や成果と課題を記述し、次に示す5区分で達成度を評価しました。

<評価について>

点検評価においては、次の5区分により達成度の評価を行いました。

評 定	内 容	容
A	順調に達成しているもの	80%以上
B	おおむね順調に達成しているもの	50%以上 80%未満
C	達成見込みであるが課題があるもの	20%以上 50%未満
D	順調でないもの	20%未満
—	評価不能	事業未実施

(1)「学校教育」の執行状況について

学校教育について、評定と数値で評価することとしました。

町内小中学校に勤務する教職員の自校評価を点数化して、町内の学校の平均値を求めました。比較するために過去のデータをもとに点数化しました。

評定だけでは分からない細やかな変化から、次年度への課題は明確にできるようにしました。

(2)「社会教育」の執行状況について

社会教育について、評定で評価することとしました。

各担当者が参加者の感想やアンケート、自己評価などで総合的に行いました。

3. 点検評価結果全体の概要

◇ 教育委員会の活動状況	
① 教育委員会会議の状況・・・・・・・・・・順調に達成している (A)	
② 調査活動の状況・・・・・・・・・・順調に達成している (A)	
◇ 事務事業の執行状況	
A 順調に達成しているもの・・・・・・・・・・	11/20 事業 (55%)
B おおむね順調に達成しているもの・・・・・・	7/20 事業 (35%)
C 達成見込みであるが課題があるもの・・・・・・	0/20 事業 (0%)
D 順調でないもの・・・・・・・・・・	0/20 事業 (0%)
ー 評価不能・・・・・・・・・・	2/20 事業 (10%)

第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動状況

別紙「点検評価シート」のとおり

2. 事務事業の執行状況について

別紙「点検評価シート」のとおり

(第1号様式)

点検評価シート

教育委員会の活動状況

担当	点検項目	実績	成果と課題	R3評価	R2評価	R1評価
	教育委員会会議等の実施状況	【定例・臨時教育委員会】 開催回数: 定例会議 12 回 臨時会議 1 回 審議件数: 専決報告 0 件 議案 11 件 内可決 11 件 【総合教育会議】 1 回 【町教委学校訪問】 4校実施	【成果】 会議では、西濃地区教育長会での会議内容や各学校での状況等を随時報告し、活発な意見交換がなされている。教育委員会関連の各種計画等の見直しの協議を実施した。 委員からは、メディア等で取り上げられている今日的な課題等について提起があり、議論をしている。 【課題】 コロナ禍の中、時間短縮等の制限がある中での学校訪問となり、細部までの聞き取りなど余裕がない状況での実施となった。	A	A	A
	調査活動の状況等	・全国町村教育長定期総会 (5月12日) ・西濃地区教委連絡協議会 (中止) ・西濃地区教委連絡協議会研修会 (中止) ・町内視察 5月～9月 各学校 ・岐阜県市町村教育委員会連合会 (オンライン11月5日) ・町研究発表会 (福東小学校 11月17日) ・郡教育委員研修視察 (中止)	【成果】 コロナ禍の中、オンラインを活用した会議など工夫がされ、効率よく会議に参加することができた。また、町研究発表会についてもオンラインを活用した工夫がされ、コロナ禍の中でも実践ができた。 【課題】 令和2年度は、会議等がほとんど中止となったが、令和3年度はオンライン会議等で開催されることが多くなった。移動の時間がなく効率よい会議となるなど、通常時においてもオンライン会議等で行うなど更なる工夫が必要である。	A	-	A

学校教育

◆各領域の評価は、町内教職員の評価を総合的に判断している。

領域	重点目標	成果と課題	R3評価	R2評価	R1評価
学校経営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	○時間外勤務が月45時間、年間360時間以内になるように、各職員がタイムマネジメントに心がけて生活できた。 ○毎週水曜日と8のつく日は18時退校、その他の日は19時退校が守られている職員が多くなった。 △19時を超えて勤務する場合は、必ず業務命令簿を事前に提出することを徹底する。	A	A	B
			82.6	81.1	77.4
研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	○ICT活用フィールド校としての授業公開、計画訪問、校内研究授業等、全職員で研修する場があり、組織的・継続的な研修が実施され、資質向上につながった。 ○オンラインによる研修に参加する機会が増え、専門的な知識を学ぶことができた。 △時間外勤務時間が増えないように、工夫して研修時間を確保する。	A	B	B
			86.9	71.2	79.3
教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	○感染防止対策を行いながら、ペア交流をできる限り行い、自分の考えを発表したり、仲間の意見を聞き考えを深めたりすることができた。 ○コロナ禍で活動制限が多い中でも、デジタル教科書やタブレットの活用で工夫をした学習活動ができた。 △ただ対話するだけでなく、深い学びにつながる対話的な活動にする。	A	B	B
			81.5	69.7	75.8
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	○道徳計画訪問を通して、多様な考えを引き出す指導方法を学ぶ事ができた。 ○道徳の授業を通して、児童生徒が自分自身の日常生活と比べて発表し、ノートに具体的に書くことができた。(道徳ノートの有効活用) △1時間の授業の中で、一人一人が自分の考えをもつことができるようにするため、自分見つめの時間を確保する。	A	B	B
			80.2	75.9	71.6
外国語活動	外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	○英語専科やALTを中心に、主体的で体験的な活動を取り入れた進め方ができているため、児童は活動を通して自然にコミュニケーションをとることができた。 ○オンライン英会話による授業が基本の形として定着してきている。 △授業だけでなく、休み時間や他の授業等においてもALTと関わることのできる時間を設ける。	A	B	B
			83.6	75.0	77.2
総合的な学習の時間の指導 (ふるさと教育・防災教育)	探究的な学習を通じて、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	○地域の方にゲストティーチャーとして来ていただく機会をつくったことで、より深く地域のことを学ぶことができた。 ○副読本「わのうち」を活用し授業を進めることで、資料集めを効率的に行え、輪之内の学習についてより深く学ばせることができた。 △各学年の内容やカリキュラムを年度ごとに検討し、より意味のある活動に改善する。	B	B	B
			78.9	66.3	72.7
特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○QU検査の結果を生かし、集団として全員が高まっていけるよう学級経営に取り組んだり改善したりできた。 ○係活動や班ごとの役割の内容を知って、どの子もやりきることができるように見届け、価値付けることで、所属感が高まった。 △2回目のQU検査後に全体で情報共有し、さらに有効に活用する。	A	B	B
			84.3	73.1	77.0
生徒指導	共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	○問題行動や不登校傾向児童生徒の情報などは、報告連絡相談を密にして、組織で対応することができた。 ○心のアンケートを計画的に実施し、その都度教育相談を行うことで、児童生徒理解を図ることができた。 △各学校全体のきまり(ルール)について、見直しを図り、現状に照らし合わせて変更する。	A	A	B
			84.1	81.4	77.2
キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	○校外学習や出前授業を通して、様々な職業にふれる機会を作ることができた。 ○委員会活動や係活動をはじめとした仕事をする中で、勤労観・職業観を育成ができた。 △学期ごとのめあてや振り返りをキャリアパスポートに蓄積し、自分の日々の成長を振り返る時間を設ける。	B	B	B
			72.1	63.4	68.7

健康安全教育	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	○業間休みのマラソンや個人縄跳び、長縄跳びの取組をしたことで、運動量が確保できた。 ○命を守る訓練を教室からの避難だけでなく、特別教室や運動場での避難、高所避難等、様々な避難方法を実際に行うことで防災意識を向上させることができた。 △感染症対策の徹底と、児童生徒自身が健康に生活できる行動を選択することができるような指導を継続する。	A	B	B
			85.3	76.3	75.8
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	○特別支援学級担任と交流学級担任とが連携をとり、児童生徒の実態に合わせながら交流の学習を進めることができた。 ○特別支援コーディネーターを中心に保護者や関係機関と連絡を密に取り、情報交流をしたことで、児童が安心して学校生活を送ることができた。 △特別支援学級や通級指導教室についての理解を深めるために、保護者や地域へ情報提供する。	A	B	A
			84.9	76.8	80.8
人権教育	自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	○日常生活の様子や毎月のアンケート等から、いじめや差別が起こらないように全校で継続的に取り組むことができた。 ○「かがやき見つけ・よいこと見つけ」等の日々の取組と「いじめ0宣言」等のひびきあい集会に向けた取組の両面から人権意識を高めることができた。 △12月のひびきあい集会の時期だけでなく、今後年間を通して人権意識を高める活動を計画的に実施する。	A	A	A
			83.9	83.3	80.3
ICT教育・図書館教育	教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。	○ICTフィールド校(大藪小・輪之内中)が中心となって授業実践を行い、町内の学校へ実践紹介や情報発信することができた。 ○一人一台のタブレットを活用し、家庭学習においてドリルパークを行ったり、クラスルームで課題を配信したりすることができた。 △家庭と協力して、タブレット取り扱いの約束の徹底や情報モラルを高める取り組みを実施する。	A	A	A
			86.6	82.8	85.1

社会教育

領域	重点目標	成果と課題	R3評価	R2評価	R1評価
家庭教育	家庭教育に関する学習機会の提供。 子育ての支援と教育環境の整備。 地域づくり会議やPTA等の連携。	○新型コロナ感染予防のため、家庭教育学級の事業が縮小され、各園各校とも在宅型取組型が行われた。こども園は、夏休みに「おやくそく」で参加率は約80%であった。各小中学校は、クッキング、お手伝い、家庭学習強化週間等で年間1~5回開催され、参加率はほぼ100%であった。 △町主催の合同家庭教育学級は、外部講師による講演型は年間3回計画したが、新型コロナ感染予防のため1回しか開催できなかった。参加者も新型コロナ感染予防のため少なかった。	B	A	A
地域教育	子どもたちの社会参加・地域活動の促進。	○青少年育成町民会議に関わる地域作り諸行事にかかわって小中学生がネットモラルに関わる標語等の募集に積極的に参加できた。 △「輪之内町情報モラル宣言」を家庭・学校で取り組んだが、新型コロナウイルス感染症予防のため地域づくり事業は中止となった。形式を工夫するなどして継続する必要がある。	B	B	A
生涯学習環境	家庭、学校、地域社会が連携し、社会全体で子どもたちをはぐむ地域づくり活動の推進。	○高齢者教室「みつば学級」を開設し、教養・健康・軽スポーツなど、その時々に即した分野の講座を通年をとしておとし実施し、高齢者の生涯学習に取り組んだ。 △新型コロナ感染予防のため前半は事業を中止した。後半は青少年育成町民会議に関わる地域づくり諸行事を規模や回数を縮小したが実施し、豊かな体験活動、健全な社会環境づくりを進めた。 △新型コロナ感染予防のため夏休みが大幅に縮小され、小学生対象の総合的な体験学習講座である「わのうち未来塾」を実施することができなかった。	B	B	A
生涯学習体制・指導者	地域における主体的な社会教育活動を支援する取組の推進。	○町および地区の青少年育成推進員の方のご尽力により、各地区における活動が関係諸団体と連携を図りながら進められ、豊かな体験活動や啓蒙活動、健全な社会環境づくりに貢献した。 △子どもたちが主体となった活動を意図的に仕組んでいきたい。	B	B	A
芸術文化の振興	文化芸術活動の振興。 子どもの文化芸術体験の充実。	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、子ども会の行事である「インリーダー研修会」をはじめとする子ども会の行事は全て中止となった。 文化協会主催である町文化祭・芸能祭は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により開催出来なかった。	-	-	A
伝統文化と郷土の歴史の保護継承	文化財や伝統芸能の保存・伝承・活用への支援。	○小学生に対して文化財の理解をすすめるため、文化財保護審議委員会で冊子「輪之内町の文化財」の小学生版の作成に継続して取り組んだ。 △伝統文化財継承(5団体)は、新型コロナウイルス感染防止のため、3団体のみ活動を計画したが、十分な活動ができなかった。	B	A	A
スポーツ推進体制	スポーツ環境の諸整備(スポーツ推進体制の充実と施設の整備)	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、小学校区ごとに「地区スポーツ振興会」を設置し、ふれあい運動会を計画していたが、中止となった。 △利用者増加に伴い、希望日の重複が発生している。予約システム等で使用の平等な環境を整備していきたい。	-	-	A
	生涯スポーツの振興(県民1スポーツ運動)	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、スポーツクラブが運営する体験型のスポーツ、レクリエーションイベントは中止となった。 △直接の町組織ではないが、クラブ運営の安定化に向け、人材確保が急務である。			
	「県民1スポーツ運動」具現のための指導者育成	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、スポーツ推進委員やレクリエーション協会の有識者が、講習会等で助言する機会が無かった。地区スポーツ推進委員が参加する事業も、全て中止となった。			